【問1】

- (2) $x^2 + x + 1 = 0$ のとき、 $x^{20} + x = \boxed{$ ウ である.
- (3) $5^{n+5} > 11^n$ を満たす自然数 n は エ 個ある. ただし, $\log_5 11 = 1.49$ とする.

【解答】

(1) 異なる 2 個を無作為に取り出す全事象は $_{12}C_2=66$ 通り. 取り出した 2 個が互いに素とならない事象(余事象)を考えると、

の21通りある. よって,

$$1 - \frac{21}{66} = \frac{15}{22}$$

(2) $x^2 + x + 1 = 0$ $x^3 - 1 = (x - 1)(x^2 + x + 1) = 0$. $x^3 - 1 = 1$.

$$x^{20} + x = (x^3)^6 \cdot x^2 + x$$
$$= x^2 + x$$
$$= -1$$

(3) $5^{n+5} > 11^n$ の両辺に底 5 の対数をとって,

$$n+5 > n \log_5 11 = 1.49n$$

 $0.49n < 5$
 $n < \frac{500}{49} = 10.2 \cdots$

より自然数nは10個.

【問2】

不等式

$$\log_4(16 - x^2 - y^2) \ge \frac{3}{2} + 2\log_{16}(2 - x)$$

を満たす点 P(x,y) の中で、x 座標と y 座標がともに整数であるものは 相ある. このうち、x 座標が最小となる点は である.

【解答】

まず, 真数条件から

$$\begin{cases} 16 - x^2 - y^2 > 0 \\ 2 - x > 0 \end{cases} \Longrightarrow \begin{cases} x^2 + y^2 < 16 \\ x < 2 \end{cases} \qquad \dots \dots \text{ (1)}$$

また,

$$2\log_{16}(2-x) = 2 \cdot \frac{\log_4(2-x)}{\log_4 16} = \log_4(2-x)$$

より, 与えられた不等式は

$$\log_4(16 - x^2 - y^2) \ge \frac{3}{2} + \log_4(2 - x)$$

$$\log_4 \frac{16 - x^2 - y^2}{2 - x} \ge \frac{3}{2}$$

$$\frac{16 - x^2 - y^2}{2 - x} \ge 4^{\frac{3}{2}} = 2^3 = 8$$

$$16 - x^2 - y^2 \ge 16 - 8x$$

$$x^2 - 8x - y^2 \le 0$$

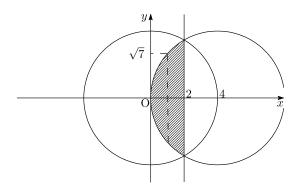
$$(x - 4)^2 + y^2 \le 16$$

$$\dots \dots 3$$

①,②,③ の共通部分を図示して右図斜線部を得る.境界は右側の円だけ含んでいる. $2<\sqrt{7}<3$ なので、領域にある格子点は

$$(0,0)$$
 $(1,0)$ $(1,1)$
 $(1,-1)$ $(1,2)$ $(1,-2)$

の 6 つであり, x 座標が最小なのは (0,0) である.



【問3】

座標空間における 2 点 A (2, -3, -1) と B (3, 0, 1) を通る直線を l_1 とし,直線 l_1 に関して点 C (1, 5, -2) と対称な点を D とすると,D の座標は $\left(\begin{array}{c} D \end{array}\right)$ である。また,点 D を通り l_1 と平行な直線を l_2 とし,点 P が直線 l_2 上を,点 Q が xy 平面上の直線 y = -x + 4 上をそれぞれ自由に動くとき, $|\overrightarrow{PQ}|^2$ の最小値は $|\overrightarrow{PQ}|^2$ のまた $|\overrightarrow{PQ$

【解答】

線分 CD の中点 M が AB 上にあり、CM \perp AB を満たしているので、実数 k を用いて

$$\begin{cases}
\overrightarrow{OM} = \frac{1}{2}\overrightarrow{OC} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OD} & \cdots \\
\left(\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OC}\right) \cdot \overrightarrow{AB} = 0 & \cdots \\
\overrightarrow{OM} = (1 - k)\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB} & \cdots \end{aligned}$$

と表せる. OM を消去する. まず, ①, ③ より

$$\overrightarrow{OD} = 2(1-k)\overrightarrow{OA} + 2k\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OC} = \begin{pmatrix} 3+2k\\-11+6k\\4k \end{pmatrix} \cdots$$
 (4)

他方, ②, ③ を用いて

④ より D(6, −2, 6).

ここで,点 P は D を通り l_1 に平行な直線上にあるので,実数 p を用いて $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OD} + p\overrightarrow{AB}$ と表せる.また,点 Q は xy 平面の直線 y=-x+4 上の点なので実数 q を用いて Q(q,-q+4,0) と表せる.いま,

$$\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OD} - p\overrightarrow{AB} = \begin{pmatrix} -p + q - 6 \\ -3p - q + 6 \\ -2p - 6 \end{pmatrix}$$
$$|\overrightarrow{PQ}|^2 = (-p + q - 6)^2 + (-3p - q + 6)^2 + (-2p - 6)^2$$
$$= 14p^2 + 4qp + (2q^2 - 24q + 108)$$
$$= 14\left(p + \frac{q}{7}\right)^2 + \frac{12}{7}\left(q - 7\right)^2 + 24$$

以上より $|\overrightarrow{PQ}|^2$ の最小値は 24 である.

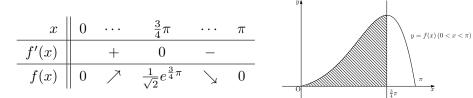
【問4】

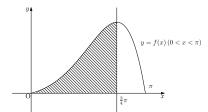
関数 $y=e^x\sin x$ は x=a $(0< a<\pi)$ において極値をとる.このとき, $a=\frac{\boxed{\flat}}{\boxed{\lnot}}\pi$ である.ま た、曲線 $y=e^x\sin x$ $(0 \le x \le a)$ と直線 x=a および x 軸によって囲まれた図形を x 軸のまわり に1回転してできる立体の体積Vは、

である.

【解答】

 $f(x)=e^x\sin x$ とする. $f'(x)=e^x(\sin x+\cos x)=\frac{e^x}{\sqrt{2}}\sin\left(x+\frac{\pi}{4}\right)$ より、以下のような増減 表と図を得る. 極値をとる x の値 a は $a=\frac{3}{4}\pi$ である.





また、上図の斜線部をx軸のまわりに回転させてできる回転体の体積Vは、

$$V = \int_0^{\frac{3}{4}\pi} \pi (f(x))^2 dx = \pi \int_0^{\frac{3}{4}\pi} e^{2x} \frac{1 - \cos 2x}{2} dx$$
$$= \frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{3}{4}\pi} e^{2x} dx - \frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{3}{4}\pi} e^{2x} \cos 2x dx$$

ここで,

$$\frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{3}{4}\pi} e^{2x} \, dx = \frac{\pi}{2} \left[\frac{e^{2x}}{2} \right]_0^{\frac{3}{4}\pi} = \frac{\pi}{4} \left(e^{\frac{3}{2}\pi} - 1 \right)$$

$$\frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{3}{4}\pi} e^{2x} \cos 2x \, dx = \frac{\pi}{4} \int_0^{\frac{3}{2}\pi} e^t \cos t \, dt = \frac{\pi}{4} \left[e^t (\cos t + \sin t) \right]_0^{\frac{3}{2}\pi}$$

$$= \frac{\pi}{8} \left(-e^{\frac{3}{2}\pi} - 1 \right)$$

$$\therefore V = \frac{3e^{\frac{3}{2}\pi} - 1}{8} \pi$$

以上より $p = \frac{3}{2}$ として $V = \frac{3e^{p\pi} - 1}{8}\pi$ である.

【問5】

座標空間に点 C(0,1,1) を中心とする半径 1 の球面 S がある. 点 P(0,0,3) から S に引いた接線と xy 平面との交点を Q とする. $\overrightarrow{PC} \cdot \overrightarrow{PQ} = t|\overrightarrow{PQ}|$ と表すとき, $t = \begin{bmatrix} \mathcal{F} \end{bmatrix}$ である. 点 Q は楕円上にあり,この楕円を

$$\frac{(x+b)^2}{a} + \frac{(y+d)^2}{c} = 1$$

とするとき,

$$a = \boxed{}$$
 , $b = \boxed{}$, $c = \boxed{}$, $d = \boxed{}$,

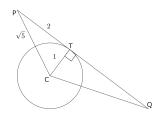
である.

また、点 P に点光源があるとき、球面 S で光が当たる部分を点 R が動く.ただし、球面 S は光を通さない.このとき、線分 PR が通過してできる図形の体積は、

である.

【解答】

3点 C, P, Q を含む平面による断面を右図に示す。 $|\overrightarrow{PC}| = \sqrt{5}$ であるので,直線 PQ と球 S の接点を T とすると,右図より $|\overrightarrow{PT}| = 2$ である。また,3点 H, P, Q は同一直線上にあるので,実数 k を用いて $\overrightarrow{PH} = k\overrightarrow{PQ}$ と表すことができる。これより $|\overrightarrow{PH}| = k|\overrightarrow{PQ}| = 2$. また, $CH \perp PQ$ より,



$$(\overrightarrow{PH} - \overrightarrow{PC}) \cdot \overrightarrow{PQ} = 0$$

$$\therefore \overrightarrow{PC} \cdot \overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{PH} \cdot \overrightarrow{PQ} = k|\overrightarrow{PQ}|^{2}$$

$$= 2|\overrightarrow{PQ}| \qquad \cdots$$

ここで、Q(x, y, 0) とおいて ① に代入すると

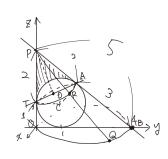
$$\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x \\ y \\ -3 \end{pmatrix} = 2 \left| \begin{pmatrix} x \\ y \\ -3 \end{pmatrix} \right|$$
$$y + 6 = 2\sqrt{x^2 + y^2 + 9}$$

 $y+6 \ge 0$ のもとで両辺を 2 乗すると

$$y^{2} + 12y + 36 = 4x^{2} + 4y^{2} + 36$$
$$4x^{2} + 3(y^{2} - 4y) = 0$$
$$\frac{x^{2}}{3} + \frac{(y - 2)^{2}}{4} = 1$$

これは $y+6 \ge 0$ を自動的に満たす.

右図を参照して,線分 AT を直径とする円のうち,その円を含む 平面と直線 PD が直交するような円を E とする.また,円 E を含む平面 α で球 S で切って球 S を 2 つに分けたときに中心 C を含まないほうの立体を S' とする.このとき,線分 PR の通過領域 K は,



円 E を底面,P を頂点とする直円錐 \tilde{K} から立体 S' を除いた部分である.

ここで,B(0,4,0),T(0,0,1) であり,yz 平面上において P から球 S の断面に接線を引いたときの接線の長さは等しいので,PA=2 である.また,A の座標,円 E の半径 r および \tilde{K} の高さh を求めると, \tilde{K} の体積 V_1 がわかる.

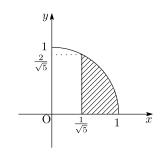
$$\overrightarrow{OA} = \frac{3}{5}\overrightarrow{OP} + \frac{2}{5}\overrightarrow{OB} = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 0\\8\\9 \end{pmatrix}, \quad \overrightarrow{TA} = \overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OT} = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 0\\8\\4 \end{pmatrix}, \quad \therefore r = \frac{1}{2}|\overrightarrow{TA}| = \frac{2}{\sqrt{5}}$$

$$\overrightarrow{PD} = \overrightarrow{PT} + \frac{1}{2}\overrightarrow{TA} = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 0\\4\\-8 \end{pmatrix}, \quad \therefore h = |\overrightarrow{PD}| = \frac{4}{\sqrt{5}}$$

$$\therefore V_1 = \frac{1}{3}\pi r^2 h = 2\pi \cdot \frac{8\sqrt{5}}{75}$$

他方, $PC=\sqrt{5}$, $PD=\frac{4}{\sqrt{5}}$ より $CD=\frac{1}{\sqrt{5}}$ である. S' は右図の斜線部を x 軸のまわりに回転させた立体に等しい. その体積 V_2 は

$$V_2 = \int_{\frac{1}{\sqrt{5}}}^1 \pi (1 - x^2) dx = \left[\pi \left(x - \frac{x^3}{3} \right) \right]_{\frac{1}{\sqrt{5}}}^1$$
$$= 2\pi \left(\frac{1}{3} - \frac{7\sqrt{5}}{75} \right)$$



以上より,

$$V = V_1 - V_2 = 2\pi \cdot \frac{8\sqrt{5}}{75} - 2\pi \left(\frac{1}{3} - \frac{7\sqrt{5}}{75}\right)$$
$$= 2\pi \cdot \frac{-5 + 3\sqrt{5}}{15}$$